

# 竹田陽一の経営随筆集

2022年9月13日 第29号



## 共産主義による国家作りはなぜ失敗したか

1967年、カールマルクスが資本論を発表して以来、共産主義を信奉する人が徐々に増加していきました。

1905年、ロシアにおいて共産主義思想をもとにした国家が誕生したあと、共産主義思想をもとにした国家の数が徐々に多くなりました。

マルクスは、資本家階級と労働者階級の貧富の差を少なくするには、価値を作り出す大本になる土地をはじめとして、機械や設備などの「生産手段」を、国家が所有すべきだと考えたのです。

共産主義思想を信奉する人々の中には貧富の差が少なくなると、次のような善順環が起きると考えました。

- まず1番目は、階級間の争いが少なくなる。
- 2番目は、犯罪が少なくなる。
- 3番目は、戦争が少なくなる。
- 4番目は、平和な社会が実現する。

こうなれば、「人々は能力に応じて働き、必要に応じて与えられる」という、理想的な社会が訪れるというのです。

それで、結果はどうなったか。

こうはなりませんでした。

政権を手にした上層部の人々はこの地位を維持するため、まず警察官を多くしました。

次は、秘密警察の人数も多くして国民を監視するとともに、「密告制度」を強化し、政治に不満を持つ者は片っ端から逮捕し、強制収容所に送ったあと強制労働をさせました。

ロシアの場合、3500万人がこうなったそうです。結局、国民は奴隷並みに扱われるようになったのです。マルクス主義を信奉する人が言っていた内容とは、全く逆の結果になりました。

なぜこうなったのでしょうか。

その原因はいくつもあるのですが、私は次のように考えています。

その原因の1つ目は、建物作りをはじめとして機械や設備など、「物」を作る新しい技術は世代を超えて伝えられることにあります。しかも物を作る知識や技術のレベルは年々高まっていくので、マルクスが資本論を発表した1867年当時と比べると、現在は比較できないほど進んでいます。

原因の2つ目は、科学知識や技術の発達で「人の遺伝子」が解読されましたが、遺伝子の内容は簡単には変わらないからです。

これは「二宮尊徳に二代目なし」という名言があるように、人々が持っている「人間愛や道徳心」は一代限りでこれらは、相続できないのです。

これは親の財産の相続はできても、人柄や人間性の相続ができないことで解ります。

もちろん3000年位前からあった「奴隷制度」は、200年ほど前に廃止されたり、「武力によって他国を侵略するのは良くないことだ」という考えは定着しているかに思われてきました。

しかし北朝鮮の原子爆弾の製造や、中国の軍事強化、さらにプーチンによるウクライナ侵略によって、人間愛や道徳心は一代限りで、後世に伝わるものはごくごくわずかであることが何よりの証拠になります。

これ以外に、アメリカ国内での銃乱射による殺人事件の多発も同じです。

このように、物や機械を作る知識や技術は幾何学級数的な進歩しているのに対して、人間愛や道徳心は一代限りで、進歩する速度が極端に遅くなります。

2つの間のズレが、マルクス思想による理想的な国家作りが、実現しなかったと私は考えています。

*Lanchester* ランチェスター経営（株）



〒810-0012 福岡市中央区白金 1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>